

# 日本災害情報学会の最近の活動

日本災害情報学会は、「災害情報」をキーワードに、防災・減災に役立つ災害情報や、その伝達・受容のあり方などを調査・研究し、その成果を社会に提言することを目的に1999年4月に設立されました。

会員構成は学者・研究者、行政、マスコミ、ライフラインなどの防災担当者、防災関係団体から成っており、アカデミックなばかりではなく実践的な色合いの濃いユニークな学会です。入会は、災害情報に関心があり、勉強の意思のある人（法人、団体）に広く門戸を開放しています。2017年3月現在で、906名（法人含む）の会員がおります。



## 沼田 宗純

日本災害情報学会企画委員  
東京大学大学院情報学環/ 生産技術研究所

1

## JASDI 日本災害情報学会2017年4月～2018年3月までの主な活動

■ 4月/ニュースレター69号発行  
特集「糸魚川大火」ほか

■ 5月/第37回理事会 (5/27 東京大学)

■ 6月/第26回災害情報勉強会  
(6/27 東洋大学)「顕著な気象災害」

■ 7月/ニュースレター70号発行  
特集「変わる気象情報」ほか  
学会誌「災害情報15号」発刊  
特集「2016年熊本地震と災害情報」

■ 8月/日本災害情報学会 調査団結成  
九州北部豪雨調査団」結成・調査開始

2017年7月5～6日に発生した九州北部豪雨災害では、福岡県朝倉市で1時間降水量130ミリ、24時間降水量586ミリを記録した。中小河川の氾濫や土砂災害による死者・行方不明者は40名を超えた。折しもこの災害は、気象庁が推進してきた「洪水警報の危険度分布」の情報提供が開始された直後の災害であった。このため当学会では、この災害を重要視し、8月には企画委員会が中心になって「平成29年7月九州北部豪雨調査団」を結成、9月には「2017年九州北部豪雨災害公開研究会」を開催した。学会調査団による調査結果は2018年4月14日の公開シンポジウムで概要が報告された。

■ 9月/2017年廣井賞決定  
・社会功績分野に静岡新聞社を選出。  
・第27回勉強会 (9/9 東洋大学)  
「2017九州北部豪雨災害公開研究会」

■ 10月/ニュースレター71号発行  
・特集「九州北部豪雨」ほか  
・第19回学会大会開催 (京都府宇治市)  
「つながる、つなげる ～災害情報の地域ネットワーク～」  
・2017年廣井賞授賞式・受賞記念講演  
株式会社静岡新聞社「沈黙の駿河湾・  
東海地震説40年など 長年にわたる地震報道」

2018年

■ 1月/ニュースレター72号発行  
田中淳会長新春所感「再考すべき実践的  
研究とは」、特集「南海トラフの新しい情報」ほか

■ 2月/第28回災害情報勉強会  
(2/3 東洋大学)  
「予知を前提としない」南海トラフ地震対策

2